



2025

6

第421号

● 真宗大谷派京都教区 教化広報誌

教区だより

特集

地区紹介 若狭、丹但

レポート

第17期 伝道研修会 前半3回 (2024年度)

今、この時に、親鸞聖人に会う

岡崎教区 中根 大氏

若年・青年層に向けた教化事業の大切さ

若狭地区教化委員長 若狭第2組 法順寺 ほうじゆん 堂谷 昌孝 どうたに あきたか



若狭地区は、福井県嶺南地域から京都府舞鶴市までの若狭第1組、第2組で教化事業を行っています。地区教化事業は、各組の教化事業を中心としつつ、あくまでもそれを補完する形で進められています。

毎年の教化事業としては、様々な所で活躍の先生方をお招きして同朋大会（組が中心）、同朋の集い（組が中心）、同和研修会、推進員の集い、聖典学習会、声明作法講習会を開催しています。出席者の多くは仏法聴聞にいらして来られた年配のご門徒さんで、その真剣な眼差しには唯々頭が下がるばかりです。若狭地区にはこれまでもそのように真剣に仏法聴聞されるご門徒さんがたくさんおられました。

しかし近年、少子化・過疎化は別にしても、多くの寺院でご門徒の寺離れが少しずつ拡大する傾向にあり、2040年には4割の仏教寺院が消滅すると言われています。その事態を心配しておられるご門徒さんも少なからずおられます。若狭地区・組教化委員会では、このような事態を危惧し話し合う場も出てまいりました。そんな中、若年・青年層に向けた教化事業の大切さが出ています。まずは、「若年・青年層の方々と真剣に出会える場をどのように設定すれば良いか」ということを教化委員会です話し合う必要があります。

仏法は不易だとしても、夫々の時代を生きる身を通して仏法を頂いていくわけですから、地に足をつけ時代背景をしっかりと見つめる必要があります。今後の若狭地区・組における教化の大切な課題です。



真宗の教えを学ぶ若狭地区と若狭第二組

若狭第2組 永願寺 えいげん 中塚 文和 なかつか ふみかず



若狭地区の第二組推進員の視点から紹介させていただきます。若狭地区は京都府舞鶴市と福井県小浜市・おおい町・高浜町の第一組と福井県若狭町・美浜町の第二組で構成されています。

門徒戸数は第一組が14ヶ寺1094戸と多く、第二組は13ヶ寺519戸であります。若狭湾と山に囲まれた日本一

原発が集中している地域です。

第二組には門徒数の40%の220人が推進員であります。推進員養成講座―真宗入門講座―は19人が受講し新たに推進員が誕生します。

推進員協議会は推進員の中から会長・副会長3名・各寺世話人12名で運営しています。年会費1千円/人で「若狭地区

推進員の集い（第一組と共同）」「総会研修会」「機

関紙配布」などの活動です。推進員は旧京都教区推進員連絡協議会加入数の1/4と多いのは、同朋会運動を率先して取り組んで来た歴代組長のご尽力のお陰です。

第二組の中でも門徒数が大きい寺と小さい寺とでは護持の環境は異なっています。当寺は代務住職にお願いしていますが、32戸の門徒は10年後には10戸が減少することが目に見えています。本山へ志願する御依頼金等は、毎年各戸で分担して負担しており、相続講金（本廟収骨・院号）も充当させていますが、今後は予測できません。

真城義磨師がおっしゃる「聖空間」に一步でも近づくには、寺が長く聞法の場合として存続できる方策を探っていくと思います。推進員として同朋会運動に尽力することでもまた大切ですが、寺院の存続も更に重要な使命であり、真宗門徒の務めと思っています。



右:サポートが必要な寺院
左:サポートが必要でない寺院

特集

たんたん 丹但地区紹介

丹波第1組、第3組・但馬組

地区の現状と課題

丹但地区教化委員長 丹波第2組 延福寺 松下暢樹



丹但地区は丹波第1組、丹波第2組、丹波第3組、但馬組の4つの組で構成されている地区です。京都府の亀岡市から兵庫県北部の豊岡市までの南東から北西に広がる地域で構成される広範囲な地域です。

過去には地区の「同和学習会」も2000人近く入る施設での開催をしていた時期もあったそうですが、現在は数年前の教化委員会で、「距離がありすぎて合同の学習会を開催していくことは時間的にも費用的にも厳しい」という理由で「今後は各組でそれぞれやっていく」という方向に舵を切ったと聞いております。

教化委員長は4つの組の組長が3年おきに順番にまわっていきます。そのことから、その時の教化委員長の組で地区の学習会を3年間開催しますので毎回集まるときは他の組の出席者は少なく、その時の教化委員長の組の出席者が多い現状です。地区の同朋大会は毎年開催地が組

ごとにまわっていきます。年間の教化活動は、毎年「地区同朋大会」と「聖典学習会」、「部落差別問題研究会」、「地区坊守会一日研修会」を年に一度ずつ開催しております。

今後の課題として、距離を克服する為にZOOMでの参加も考えております。今年度は3月に「聖典学習会」で、大谷大学から先生をおまねきして『教行信証』について解説していただきました。また

4月には「部落問題研修会」を開催し、京都市の崇仁発信実行委員会すうじんの代表の方にお越しいただき、差別の体験談を通して共に学びを深めたいと思っております。

「聖典学習会」を開催し、京都市の崇仁発信実行委員会すうじんの代表の方にお越しいただき、差別の体験談を通して共に学びを深めたいと思っております。



昨年度の「聖典学習会」

丹但地区坊守会の取り組み

丹但地区坊守会会長 丹波第1組 光瑞寺 原田千秋



丹但地区坊守会は、丹波第1組、第2組、第3組、但馬組の広範囲な地区です。地理的に車での移動が必要となり、会所によっては、片道2時間近くかかる時もあります。

私が地区坊守会に参加させていただく様になりました。まだ10年程ですが、それまでも様々な取り組みをされてきたと聞いております。

現在は研修会を中心に取り組んでいます。研修会を公開講座として行う場合もあり、その時は寺族、ご門徒の皆さまにもお声を掛けさせていただきます。ご参加いただけます。また、研修会当日は「講師と一緒に各会所の美味しいお料理を頂きます。から交流も深めています。

これまでも、私たち坊守は一人の真宗門徒として教えを聞かせていただいておりますが、様々な疑問を持ちながらもそのままにしていた事に気付き、自身の問いを考えていく為にも基本か



ら学び直しをする事にしました。2023年度からは教区駐在教導さんをご講師にお招きして、連続で「真宗と坊守—坊守って何?—」という講座で一緒に学ばせていただいております。

「真宗坊守のはじまり」から「宗門の女性に関する規定の経過」「坊守の位置付け」等の講義を受け、質疑応答から出てきた更なる疑問や続けて学びたい内容が次回へと繋がっています。

丹但地区坊守会を通して、改めて自身それぞれの問いを今一度考えるご縁をいただいておりますので、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。



丹但地区坊守会資料

第17期伝道研修会前半3回

(2024年度)

道を求めて道を伝える

第17期を迎える伝道研修会に参加しました。伝道研修会は、真宗の教学を学び、かつ次代に伝えていく真宗大谷派教師を育成するものです。2日間

近江第8組 上宮寺 早川直子



の研修がひと月に1回、3か月連続で、2025年は前期の日程が実施されました。研修会の1日は講義と攻究、そして法話実習から成ります。黒萩昌先生の講義では、教化して人を救うのは如来のからいであるが、仏法の救いという道を伝えることが育成員のつとめであると最初にしっかりと確認されました。

どういただいているか、その受けとめを語るのが法話である。このような明確な方向を講義で指し示され、励ましもいいただきました。

歩めていなかった私

今年一月、第十七期京都教区伝道研修会に参加しました。テーマは「現代に伝える伝道の在り方」として、黒萩昌先生からご講義を頂きました。

山城第3組 専念寺 仲野恵理子



教化本部研修講座部会のスタッフと行う攻究、受講生による15分間の法話実習を通して、このたび私が心に留めておこうと思ったのは「私が受けとめた仏法の味わいを、聞く側も共有できる話であること」「言葉を自分の中できちんと消化し、論理の筋を作ること」です。念仏申す場に身を置いてまず教えを聞き、それを人に話し、また聞くことに立ち戻る。この聞法の繰り返しが大事だと感じます。

現代にあっても釈尊在世のころから人間の問題自体は変わっていない。「私」とは何なのか、そのことを問う宗教は仏教以外にはない。有限の命を生きる人間の根にある「宿業」が問いになる。宿業に生きる身として、教えを私自身が

お寺の役目の一つとして、学んだことを伝えていくということがある。私がお寺のことをするようになったときは新型コロナウイルスが猛威を奮っており、お彼岸や報恩講は密にならないよう、お焼香をし終わったらすぐに帰って頂くと、いうスタイルを二年続けていた。その後

いたつけがここで回ってきたという感じがした。しかし、参加して良かった。攻究や合評で様々な意見を、教学に沿って述べられたり、先生のアドバイスを頂くことができたり、とても充実した研修会でした。改めて感じたことは、一人ひとり違った立場や背景、年代や性別も違う人たちに対して話をしようとする、どうしても共感や理解してもらえない可能性があるということ。万人受けしようと思うと一般的な、誰がしてもいいような内容になってしまうかもしれない。講義の中で「わかりやすいお話でした」とお礼を言われることは、歩んでいないことになる。というお話しをされていたことが印象に残っています。

「私」とは何なのか、そのことを問う宗教は仏教以外にはない。有限の命を生きる人間の根にある「宿業」が問いになる。宿業に生きる身として、教えを私自身が

仏法の中に日常がある。その意識を常に持ちながら、来年の後期日程に向けて日々研鑽していきたいと思えます。

私の順番が回ってくるのは第二回目の二日目だったから、一回目に講義頂いた時の注意点や、ほかの人の合評を聞いた上での法話になる。とても緊張したし、思い出すのも恥ずかしい。今まで逃げて

「仏法漬けになる」という「実験」を次回の伝道研修会に向けて実践していきたいと思えます。

喚びさまされる信心

研修講座部会 但馬組 教徳寺 釋崇心 瀬田 崇



改編後の京都教区において初となる伝道研修会が、上半期1泊2日×3回の日程で、冬の京都教務所にて行われ、受講生20名・聴講生10名・スタッフ14名が集いました。

黒萩昌先生による講義と攻究、法話実習・合評が中心ですが、懇親会もあり充実した時間となりました。研修講座部会スタッフとして運営する中で、勤行の所作を指摘して頂く事があり、見られる立場としての意識が高まりました。

「生死を超える道がここにある」

「道を伝える、問いを伝える」

「仏法を聞くというのは自分の正体を問い、知るという事」

「如来は、私だけに私の正体を教えてくれる。そこで素直にそうでしたね、と頷けるか」

「説明者ではなく、証明者となりなさい」

という先生の言葉が、心に残っています。

自分は説明者としてつまらない法話をしてきたのではないかと反省しました。ふと、「私には信心というものが無い」

という言葉が参加者から聞こえ、はっとしました。何とも言えない悲しい気持ちがある自分に気が付きます。これは、私が「信心を大事にしたい」と思っているからなのか、あるいは自分が無力だからか。よくわかりません。振り返ると前回受講した際、「信心」について曖昧だった自分を内省するような話をしていました。

『歎異抄』第六章にも

「如来よりたまわりたる信心」

とあります。自分の見識や疑いが、破られて、破られて、深く考えさせられています。



法話実習後の合評

男と女の平等って、なに？

出版部会 石西組 専龍寺 前田 素子

小学生の時、休み時間に野球をして遊んだ。当時、女子は少年野球チームに入れなかったため、野球ができることがうれしかった。私の打順の時、それまで速い球を投げ

「女子は野球が苦手」という価値観があるから、相手もそう思っていると自分で決めつけたのではないだろうか。

ていた男子のピッチャーが、私には遅い球を投げてきた。手加減されたことが腹立たしかった。「本気で投げてやあ！」と言うと「女子に本気で投げられん」との返事。少し言い合った後、(おそらく)本気で投げてくれた。三振した。悔しかった。打てなかったことも、女子は野球が苦手だと決めつけられたことも、何よりその決めつけを覆せなかったことが悔しかった。

他人から自分のことを決めつけられ、価値観をおしつけられると感ずることがある。素直に肯ける時もたまにあるが、だいたい居心地の悪さや苦痛を感じる。しかし私も常に、他人を平気で決めつけ分別し、取捨選択して人間関係を築いている。それは同時に、他人を差別し傷つけているのだが、私にその自覚がない。

今は、ただ楽しく野球をするための配慮だったかもしれない、とも思う。私がピッチャーでバッターが小さな子どもだったら、私は打ちやすいように緩い球を投げる。野球をその子に楽しんでほしくて。それと同じだったのではないか。私に

縁がととのえば、何をするか、何を思うかわからない「人間」である私。平等とかけ離れた存在だと思ふ。



今、この時に、

親鸞聖人に会う



名利的太山に迷惑して

岡崎教区

第25組 正信寺

中根大



今日ここで私が雛鳥の刷り込みのように初めて聞いて今でも心に残っている御聖教の一節についてのお話をしたいと思います。

私が宗門の大学に編入してすぐに真宗本廟に参拝し、教師資格を取るという事はどういう事なのかという、主に心構えについてのお話を聞く機会がありました。そこで「名利の太山に迷惑し

て」と『顕浄土真実教行証文類』の信巻に書かれている言葉が出てきまし

た。その言葉を聞いて私は「いい言葉だなあ、これからは名誉や利益に拘らずに生きて行こう」と単純に感心していました。振り返れば今までの学生生活で将来の（もっと本質的な所をあたって行けば自己顕示欲の）為に常に他人より良い成績を、他人より良いグレードの学校に進学をとという事ばかり追い求め、そればかりか自分より下のグレードの人を見て安堵し、上の成績の人を妬み、もし学業がつかずいて留年をしてしまったらもうおしまいだと自分で自分を縛り付けるような有り様でした。そんな有り様でしたが自坊の事情で家を継ぐことになり、それまでの所謂競争社会から抜け出す形になっていた当時の自分にはかなり身に染みる言葉だったのだろうと思います。

それから大学を卒業し、とあるお寺で法務員をしながら学んでいた私は、最初は上下関係の厳しい現場にあれこれ忙殺される事もありましたが、次第に声明も少し上達しそれなりに仕事も任せてもらう機会も増えて現場にも慣れて来ました。そうして周りを見渡してみると、色々な人が名誉欲や利益欲

に執着している現実が見えてきました。

親鸞の生き方に学んだ身が一番名利の太山に迷惑しているじゃないかと失望することがありました。そういった現実の在り方に失望している中、今度は私の心の中に「あいつより声明が上手いはずなのにどうして冷遇されるのだろう」、「あいつよりちゃんとしているはずなのにどうして」といった気持ちが湧いて来ました。名利の太山に迷惑している人に失望しながら、私自身は数年前に感心していた言葉をもう忘れてしまっていたのです。言い換えるならこの太山に迷惑しないと思っていた私自身が太山のかなり深い所に遭難していた現実に気づかされました。さらに、名利の太山というものは一時の心境の変化では抜け出せるものではなく執着する事柄が変わるだけで根本的な所は何も変わらないという事に気づかされました。

この問題だけでなく私の在り方が問われる問題で本当に嫌になることは、不治の病のように一生向き合っていかなければならないという点だと思えます。どんなに名誉欲や利益欲に振り回されたくないと思っても気が付くとそのような生き方をしてしまう私にふと気づいて愕然とするのです、その気づきすら

すぐ忘れてしまうものですから本当に嫌になります。しかし、そんな私を誤魔化さずに見据えているのが仏法、さらには阿弥陀如来ではないかと思えます。それに対して私ができる事はこれで終わりとせず問い続ける事ではないかと思



京都教区 6月の教区事業

13日(金)	15:00～18:00	准堂衆会声明会	教区会館 2階 大講堂
18日(水)	9:30～12:00	坊守会基礎講座 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂

京都教区 6月の教区諸会議

10日(火)	13:30～16:30	教化本部企画室会議	教区会館 2階 大講堂
11日(水)	13:30～16:30	参事会・常任委員会	教区会館 2階 大講堂
16日(月)	13:30～16:30	教区門徒会会員協議会	教区会館 2階 大講堂
17日(火)	13:30～16:30	教区会議員協議会	しんらん交流館 大谷ホール
26日(木)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)

教務所からのお知らせ

住職任命者

二〇二五年四月二十八日付

- ・近江第七組善休寺 藤野聡太
- ・近江第八組照耀寺 浅野裕二
- ・丹波第一組頓乗寺 山内真也
- ・丹波第一組教誓寺 川口虎太郎

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- ・長浜第十四組福泉寺

住職 東谷智 六十七歳

二〇二五年三月二十二日

- ・長浜第二十一組源照寺

前任職 箱田秀正 八十八歳

二〇二四年九月二十九日

- ・長浜第二十三組頓念寺

前任職 古松文字 九十九歳

二〇二五年三月二十八日

- ・山城第四組光久寺

住職 徳田良明 七十四歳

二〇二五年三月二十七日

- ・山城第五組法敬寺

前任職 相樂とよ 百歳

二〇二五年二月二十二日

- ・近江第二十五組本慶寺

前任職 高木雅子 九十一歳

二〇二五年四月二十一日

- ・近江第二十六組真光寺

前任職 大久保和子 九十四歳

二〇二五年二月十五日

- ・石東組浄慶寺

前任職 藤浪龍 八十六歳

二〇二五年三月十七日

〔寺院教会番号順 敬称略〕

教務所職員の仕事異動について

【二〇二五年三月三十一日付】

- ・渡邊 晃

京都教区駐在教導を退職。

【二〇二五年四月一日付】

- ・磯野 恵嗣

京都教区駐在教導に任命。

- ・柴田 理加

京都教務所嘱託に任命。

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱いは、左記のとおりです。

5月12日(月)	5月26日(月)
6月9日(月)	6月23日(月)
7月28日(月)	
8月4日(月)	8月18日(月)
9月8日(月)	9月22日(月)

教務所・教務支所閉所のお知らせ

・2025年6月3日(火)

近畿連区職員研修のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

・2025年6月25日(水)

所員ミーティングのため、教務所・教務支所を閉所いたします。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月日に発生した能登半島地震から一年余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今なお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにごとご趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 6月の行事予定

2日(月)	14:00~16:00	五村	五日会連続講座 法話 東館紹見 師(大谷大学教授)	五村別院
5日(木)	14:00~18:00	伏見	伝研自主学習会 宮城顕選集『浄土論註聞記』輪読	伏見別院
5日(木)	12:00~13:00	赤野井	定例法要(教如上人御命日遠夜) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院
6日(金)	13:30~16:00	山科	同朋の会 法話 磯野恵嗣 師(教区駐在教導)	山科別院
6日(金)	14:00~16:00	伏見	声明作法講座 法話 浅井誠 師(山城第3組 皆演寺)	伏見別院
8日(日)	13:30~16:00	長浜	推進員研修会 法話 保木悦雄 師(小松大聖寺教務所長・近江第26組 浄立寺)	長浜別院
10日(火)	14:00~17:00	伏見	同朋会 御文輪読	伏見別院
11日(水)	14:00~16:00	大津	同朋の会 聞法会 法話 渡邊ひろみ 師(山城第3組 浄徳寺)	大津別院
13日(金)	10:00~11:00	岡崎	三日講「味読正信偈」 法話 福田大 師(別院輪番)	岡崎別院
15日(日)	14:00~16:00	山科	永代経法要兼定例法話 法話 赤松崇麿 師(教区駐在教導)	山科別院
17日(火)	19:00~21:00	伏見	親鸞教室 法話 藤原正寿 師(大谷大学准教授)	伏見別院
19日(木)	14:00~16:00	長浜	しんらん講座 法話 訓覇浩 師(三重教区 金蔵寺)	長浜別院
23日(月)	10:00~11:30	岡崎	三日講「蓮如上人を訪ねて」 法話 松岡響 師(列座)	岡崎別院
27日(金)	14:00~16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 川那辺明 師(山城第2組 西福寺)	伏見別院
27日(金)	12:00~13:00	赤野井	定例法要(宗祖親鸞聖人) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院

京都教区
公式SNSあります

公式SNSで更新情報などを配信しています。
1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区
ですが、登録者数はまだまだ少ないです！
ぜひご登録をお願いします！



LINE公式アカウント
2025年4月30日現在
登録者数173名
LINE ID @441foywe



Facebook, Instagram
もちろんあります！



一編一集一後一記

遠い親類にあたる隣町の住職が、四月初めに急逝しました。私より二つ若く、五十歳でした。ごく浅い親類付き合いでしたが、時に立ち話などしていました。若い時は、共に違う別院に奉職し、住職としては彼の方が先輩でした。失うと、もつと彼と僧侶としての胸の内を話しておけば良かったと悔やまれます。「諸行無常」とばは知っていても現実は厳しいです。頷ける人生は歩めるかも知れませんが、悔いのない人生はないと思います。

(出版部会 井上 教真)

教区だより表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします！
テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。詳しくは京都教務所まで。お待ちしています！



【表紙の写真】「ツバメ巣立ち雛」(水谷隆彦/伏見別院門徒)

